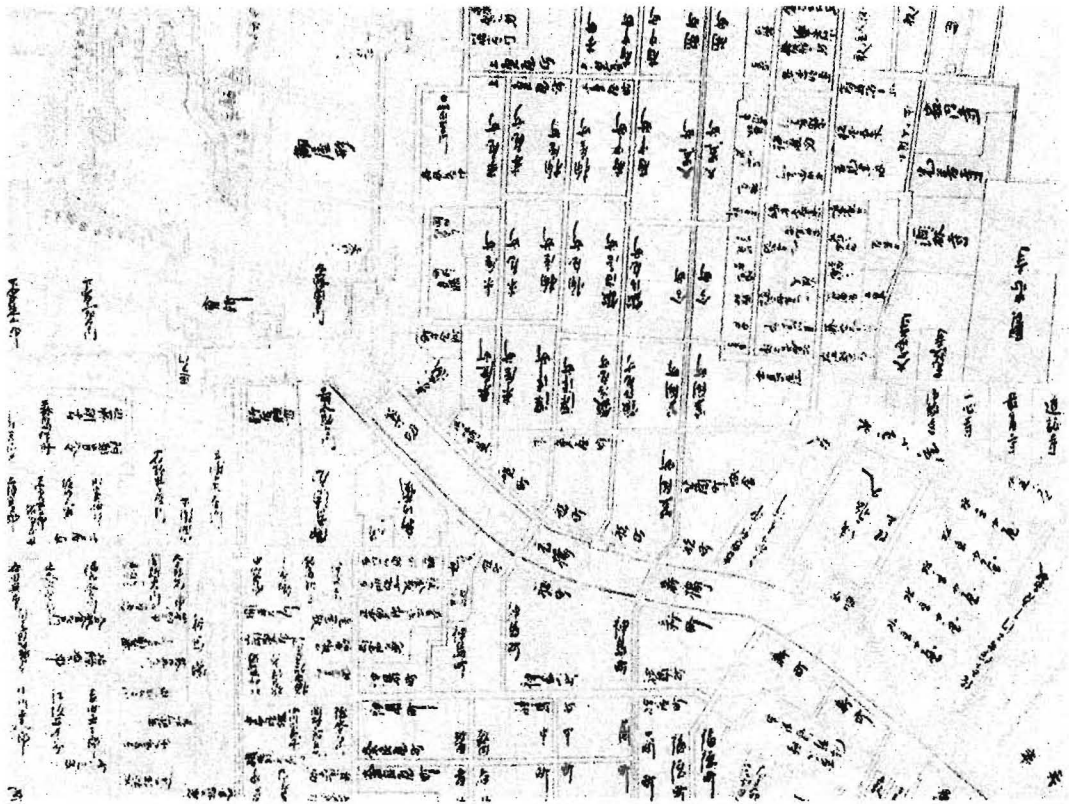


# ぶら探訪

その七 福山発展の道を歩く パート4

講師 田口義之

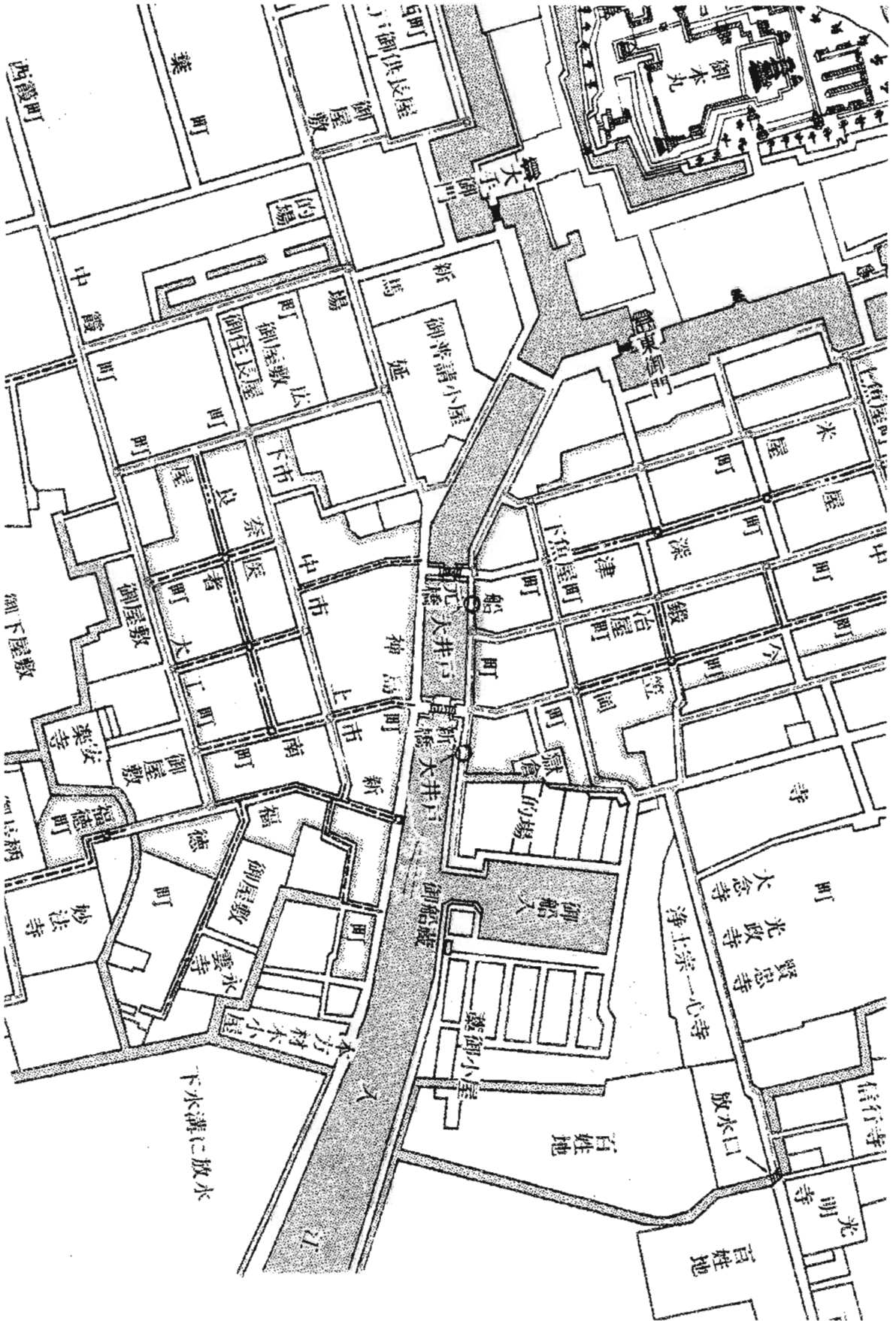
平成24（2012）年10月6日【土】午前9時スタート

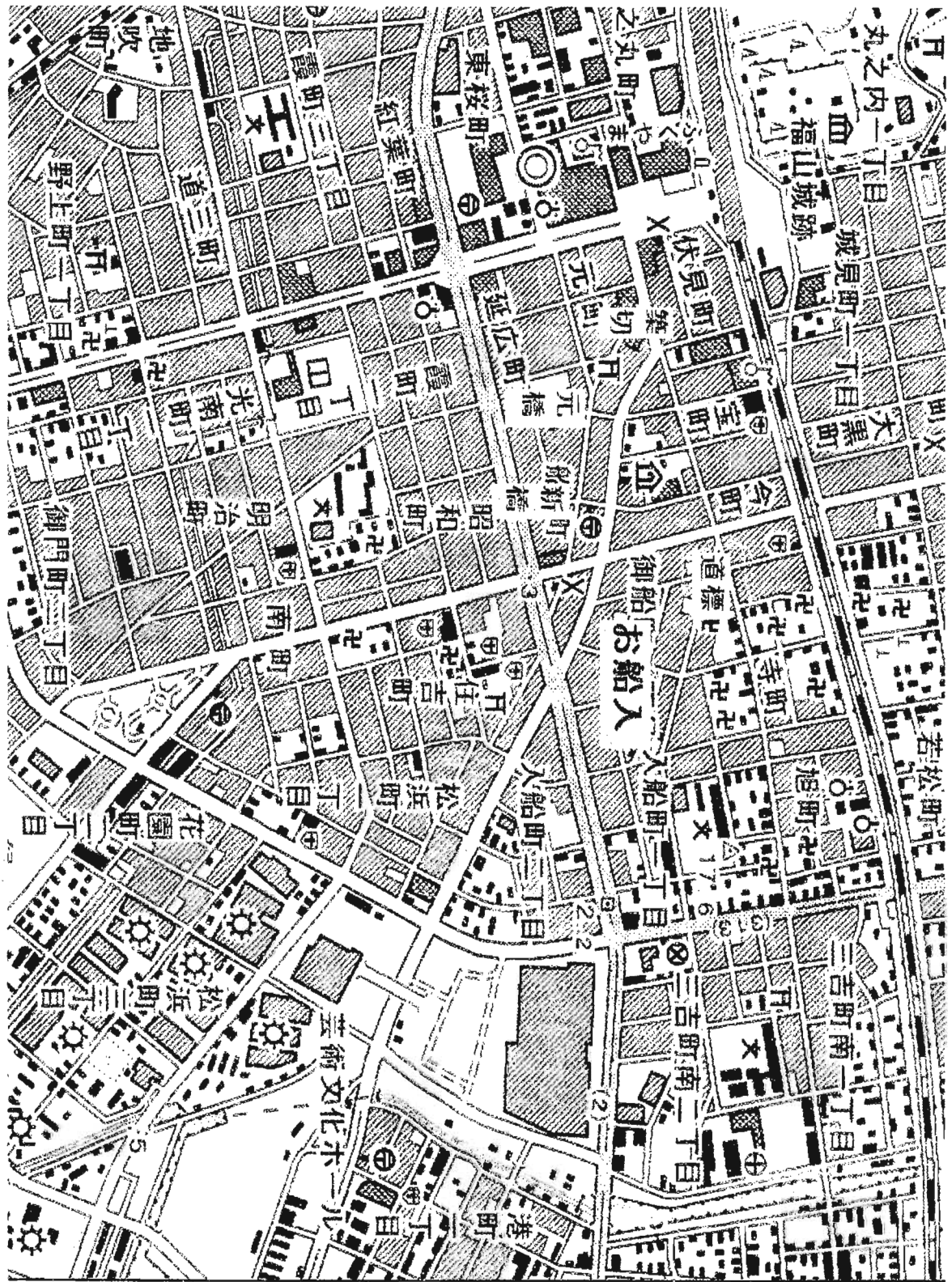


## 主な見どころ

- 1、福山城三の丸、外堀
- 2、入川跡、本橋・新橋の跡など
- 3、新四国八十八箇所（万延元年に設置されたもの）

水野時代の絵図を現代風に清書したもの（福山水道史）





現代 25000分の一地形図「福山西」を拡大したもの

## 古記録拾遺

### 備陽六郡志


築切 当城の始、此の築切これ無し、獵船は東門の橋の下を通り直に上魚屋町に至り魚を揚、せりて商いけるか、勝成公其の騒がしきを嫌ひ給ひて、此の所を築切なば獵船の通行もなく堀に水を溜るにも宜しかるへしと、不達 公聴て、築切しむ。此の事既に台聞におよび、湟中に水を溜、要害を構る事、穩便の義にはあるべからずと、勝成公を急、江戸へ召けれとも、全く趣意も無き事ゆえ、お答めもなかりしと也

#### 市井

福城の南、箕島の干潟より城外まで入川なり。左は川口村、右は手城村を経て直に松が端に至り、それより斜めに、左は野上村、右は三吉村を経て船、市中に入、城外築切まで、潮汐満るなり。干潟入川と云うべきを、濱と唱え来れり。橋二条、南北にかかれり 本橋新橋

西を本橋と云。欄千金法珠有 葬送、刑人等を通さず、俗に云う所天下橋と称す。六斎の市に松節を買い、又筵を買い、故に筵橋とも云。東を新橋と云。平高欄 刑人晒し者は此の橋にて行ふ。高礼場あり。此の橋より諸方へ行程駄賃などを極む。六斎の市に木綿を商、故にもめん橋と云。正夔公の御代、寛保二年十一月七日より、此の橋詰に目安箱を指出せらる。尤も一か月の内七日、十七日、二十七日、朝五つ時より七つ時迄、出し置かれる。

濱を市井の中央とし、濱より南、神島上市、同中市、同下市、奈良屋町、新町、井(ママ)町、医者町、福德町、中町、大工町、船町南側。以上を神島と云。濱より北、笠岡町、今町、大黒町、胡町、桶屋町、上魚店、下魚店、本町、加治屋町、上米や町、中米や町、下米や町、上府中町、下府中町、深津町、船町北側。以上を内町と云。吉津町、古吉津町、道三町、長者町。都合三十町なり。

	<b>備陽史探訪の会 事務局</b>
〒720 - 0824 福山市多治米町5 - 19 - 8	
TEL&FAX 084 - 953 - 6157	
E-メール b-tan-kai@009191.com	
公式ホームページ	
<a href="http://www3.plala.or.jp/big-eye/">http://www3.plala.or.jp/big-eye/</a>	

次回のぶら探訪は「洗谷を歩く」です。12月1日朝9時に水呑大橋西詰下の芦田川河川敷に御集合ください。